



arcserve®

オンプレミスからクラウドまで、あらゆるニーズに応える統合バックアップ・リカバリ ソリューション

Arcserve® Unified Data Protection

ニーズに応じた豊富な機能を持ち、目的に応じたバックアップを実現



**バックアップを
誰でも手軽に、簡単に**

一人だけの情シスでも
運用やランサムウェア対策が簡単



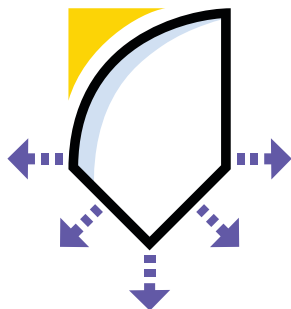
**物理／仮想／クラウドも
まとめて管理**

WindowsやLinux
そしてクライアントPCにも対応



災害対策と業務継続

クラウドや遠隔地での保管と
早期復旧で影響を最小化

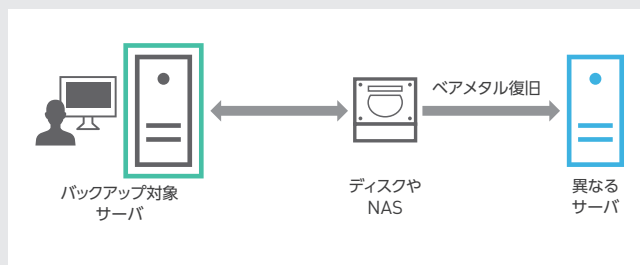


単一サーバから複雑な環境まで、 バックアップをもっと 「手軽」に「シンプル」に

Arcserve Unified Data Protection (UDP) は、Windows や Linux のスタンドアロンサーバはもちろん、システム全体をシンプルに管理し、バックアップ・リカバリできます。

単一サーバのバックアップ・リカバリ

サーバを「丸ごとバックアップ」し、「丸ごと戻す」ことができます。専門知識の無いユーザでもバックアップ／リカバリできる簡単さと運用負荷を軽減する高度な機能を標準で備えています。バックアップ対象は、Windows、Linux だけではなく、その上で稼働するアプリケーションやデータベースも無停止でバックアップできます。

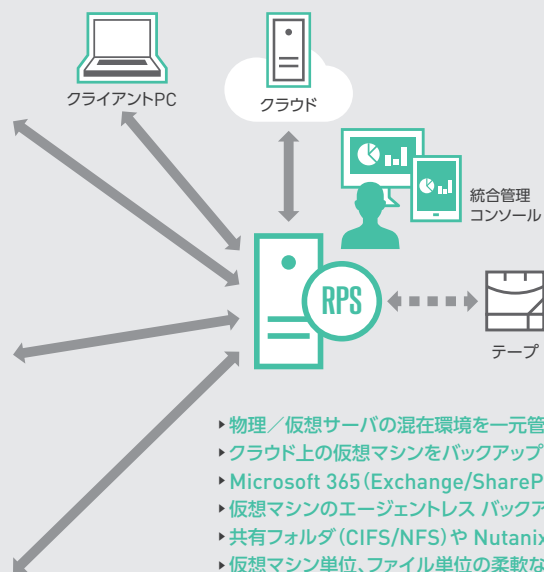
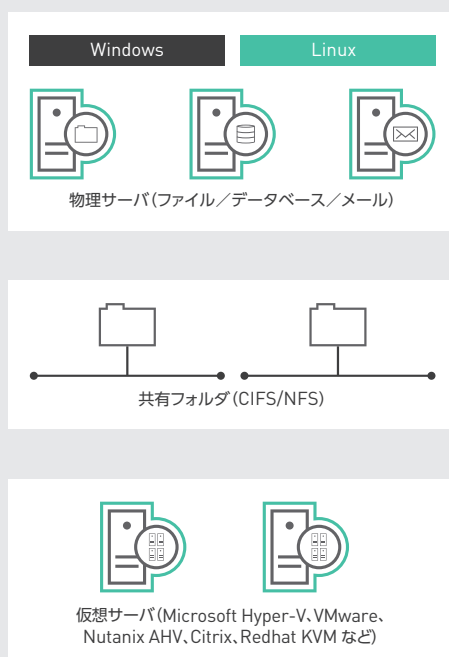


- ▶ 簡易な操作性
- ▶ わずか10分の簡単インストール
- ▶ 異なるサーバへの丸ごと復旧 (ピアメタル復旧)
- ▶ Microsoft Active Directory, Microsoft SQL Server, Microsoft Exchange Server, Microsoft SharePoint Server, Oracle Database
- ▶ フォルダ／ファイル単位、データベース単位復旧
- ▶ エクスプローラからのリストア

P.4 | 誰でも手軽に、簡単に

物理・仮想サーバからクラウドまで、混在環境を統合バックアップ・リカバリ

企業内の物理サーバ、仮想サーバ、クライアントPCなど複雑化するシステム環境のバックアップ／リカバリ運用を統合して行うことができます。対象が多くても統合コンソールから同一の操作性で全てを管理することで、IT管理者の運用負荷を大幅に削減します。



- ▶ 物理／仮想サーバの混在環境を一元管理
- ▶ クラウド上の仮想マシンをバックアップ
- ▶ Microsoft 365 (Exchange/SharePoint/OneDrive/Teams)
- ▶ 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
- ▶ 共有フォルダ (CIFS/NFS) や Nutanix Files のバックアップ
- ▶ 仮想マシン単位、ファイル単位の柔軟なリストア
- ▶ テープへ2次バックアップ

P.5 | 仮想化基盤の運用をシンプルに

コンポーネント

要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。



エージェント

バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。



統合管理コンソール(サーバ)

複数台の保護対象(サーバ/クライアントPC)のバックアップ/リカバリやエージェントレスのバックアップの統合管理を行うことができます。また、復旧ポイントサーバ(RPS)を管理します。

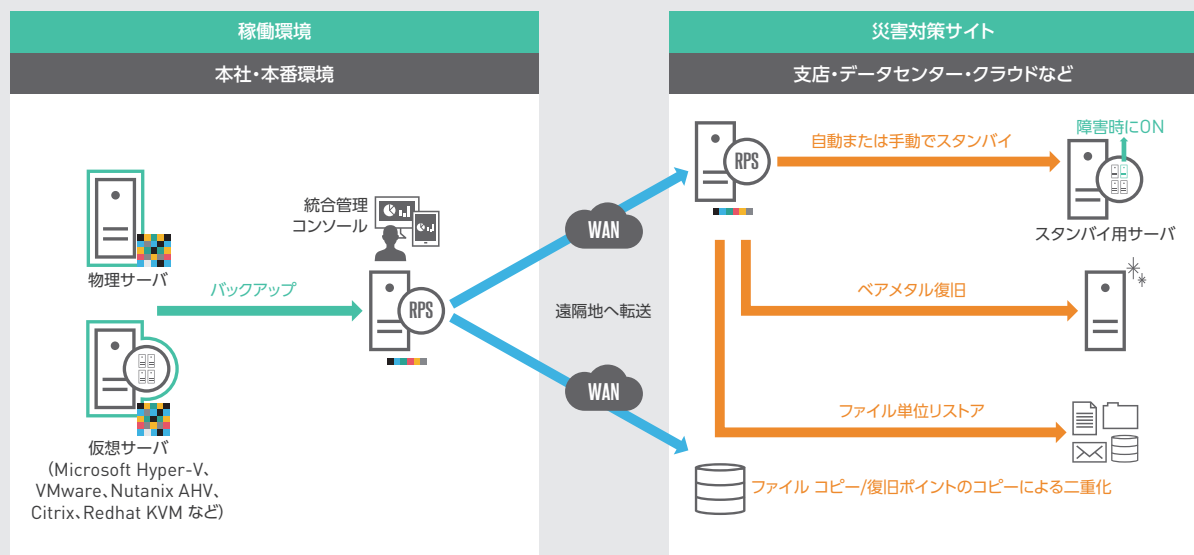


復旧ポイントサーバ(RPS)

バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。

災害対策サイト／データセンターでのデータ保管／スタンバイ

災害発生時にも企業は業務を止めることができません。Arcserve UDP は、バックアップデータを遠隔地に転送したり、バックアップデータから仮想マシンを自動生成(スタンバイ)させ、リストアするよりも速い業務再開を実現する機能などを標準で搭載しています。さらに、導入が進むクラウドへのファイルコピーやクラウドサーバのバックアップなどにも対応します。



標準機能

- ▶ バックアップデータの重複排除
- ▶ バックアップデータの転送
- ▶ 仮想スタンバイサーバの自動・手動生成
- ▶ マルチテナントストレージ機能
- ▶ インスタント VM

Premium／Premium Plus エディション

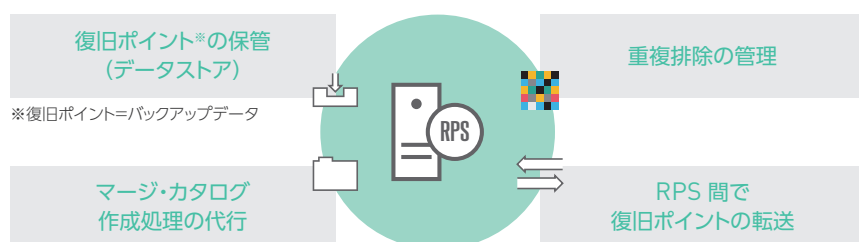
- ▶ リアルタイム ファイルサーバ複製
- ▶ リアルタイム アプリケーションデータ複製

P.5 | クラウド対応

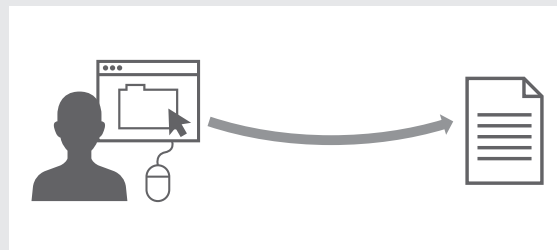
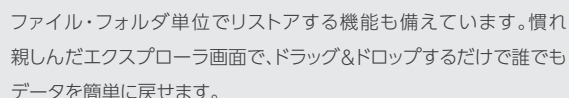
P.6 | 業務継続・災害対策

バックアップを効率化する復旧ポイントサーバ(RPS)で使える機能

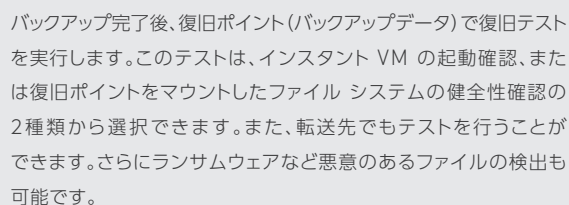
復旧ポイントサーバを導入することで、Windows や Linux など保護対象が多い環境のバックアップ/リカバリ、および災害対策を効率的に行えます。



OS、アプリケーション、データとシステム全体を簡単に「丸ごとバックアップし」、「丸ごと元に戻す」ことが可能です。専門的な知識や複雑な設定は一切ありません。



初回のフルバックアップ以降は、変更ブロックのみを増分バックアップし続けることでバックアップデータを削減し、バックアップ時間を短縮します。設定した世代数を超えると一番古い増分バックアップとフルバックアップを自動的に合成（マージ）するので、フルバックアップの取り直しが必要ありません。



※図は復旧ポイントの保存数を3個に設定した場合。初期設定では7個(最大1,440個)。

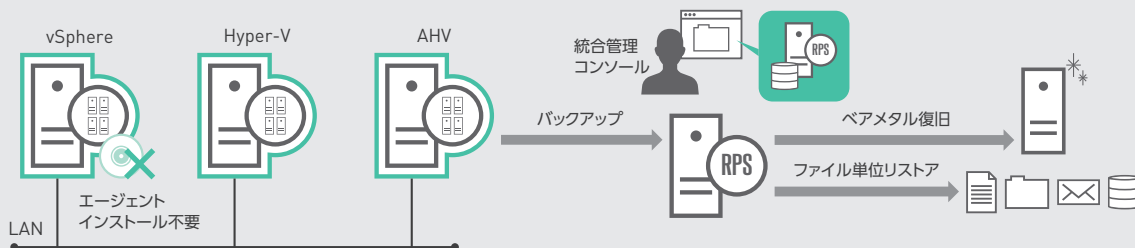
初心者でも使える管理画面になっています。さらに、仮想/物理、Windows/Linux、クラウドを同じ画面で管理できる統合管理コンソールやレポートで大規模環境のIT管理者も強力にサポートします。いずれの画面も WEB インターフェイスなので、操作する場所を選ばないこともポイントです。



仮想化基盤の運用をシンプルに

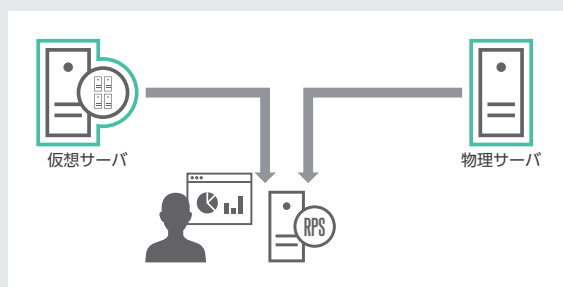
仮想化基盤側で設定が完了。エージェントレス・バックアップ

VMware vSphere 環境でも、Microsoft Hyper-V 環境や Nutanix AHV 環境でも、Windows と Linux の各仮想マシンにエージェントを導入することなく、バックアップが行えます。エージェントレスでありながら、継続的な増分バックアップや仮想マシンの中にあるファイルやフォルダだけをリストアすることもできます。



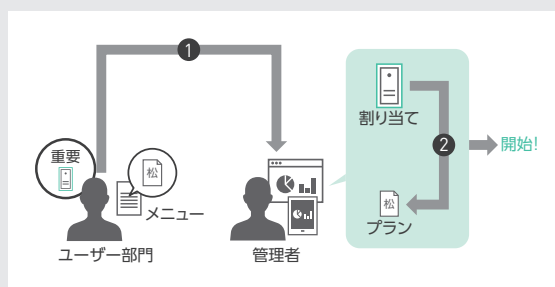
仮想も物理も 統合管理

仮想環境だけでなく、物理環境ももちろん統合してバックアップできます。さらに物理サーバと仮想マシンのバックアップをすべて同じ画面で管理できる点も Arcserve UDP の強みです。



バックアッププランのテンプレート化で 運用管理の負荷を軽減

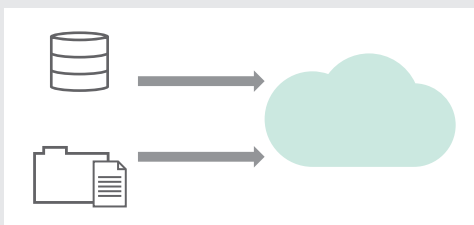
バックアップ方法をあらかじめメニュー化しておくことでシステムごとに要件を定めて設計する手間がなくなります。ユーザー部門に、システムの重要性に合わせてプランを選択してもらい、あとは対象システムを選択されたプランに割り当てただけでバックアップが開始できます。



クラウド対応

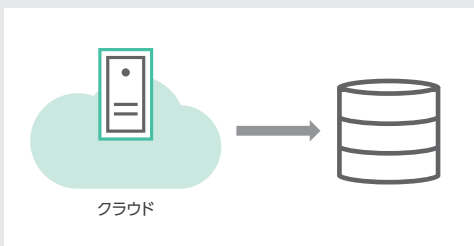
クラウドへ復旧ポイントコピー／ファイル コピー

復旧ポイントをクラウドへコピーやバックアップデータからファイルを抽出してコピーできます。オブジェクト ロックが有効なストレージに復旧ポイントをコピーすることでランサムウェア対策を強化できます。



クラウド上の仮想マシンをバックアップ

すべての仮想マシンにエージェントを導入してバックアップすることができます。またバックアップデータの転送先として利用できます。



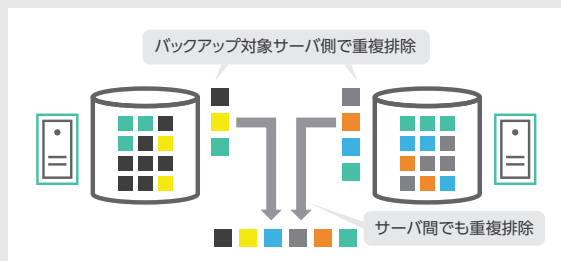
クラウド サーバ上への 仮想スタンバイ

Amazon EC2、Microsoft Azure および Google Cloud Platform (GCP) 上のインスタンスへスタンバイが作成できます。パブリッククラウドを使用した業務継続を強化できます。Windows のバックアップ環境をオンプレミスからクラウドへ簡単に移行することができます。



バックアップデータの重複排除

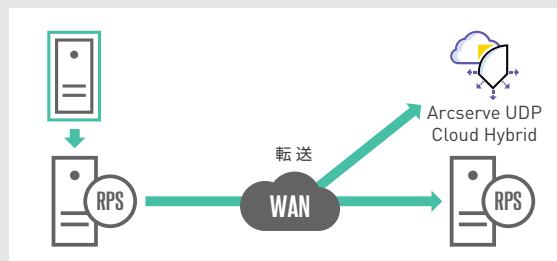
バックアップ対象サーバ(エージェント)側で重複を排除しバックアップします。重複排除済みのデータがネットワーク転送されます。また、バックアップデータ用のディスク使用量を大幅に削減することができます。



バックアップデータの遠隔転送

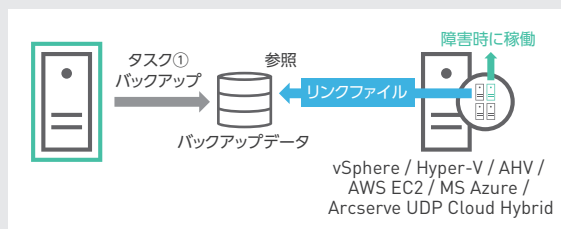
標準機能である復旧ポイントサーバを複数導入する事で、バックアップデータを効率よく遠隔地に複製できます。

※ Arcserve UDP Cloud Hybrid (Arcserveクラウドにてバックアップデータの複製をお預かりするサービス)も別途利用できます。詳細は、弊社 Web サイトまたは Arcserve UDP Cloud Hybrid のカタログをご覧ください。



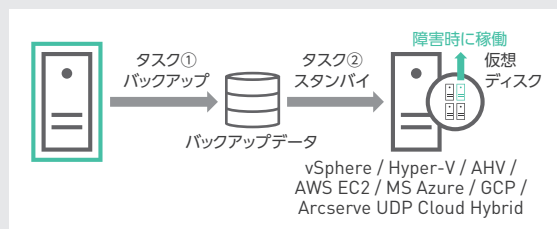
障害発生時にリカバリ不要で業務を素早く再開

障害発生時にウィザードを利用して「インスタント VM」を作成することで、仮想マシン経由でバックアップデータを参照して一時的に業務を再開することができます。リストアの時間を短縮できるためビジネスの機会損失を回避します。リモートヘインスタント VM する場合は、RPS が必要です。



スタンバイサーバを使って業務を迅速に再開

バックアッププランにて、あらかじめスタンバイ用の仮想基盤上にリストアしておきます。本番サーバ/サイトで障害や災害が発生したときには、仮想マシンを起動するだけで代替運用が可能です。スタンバイ用の仮想基盤を設定すれば災害時の継続運用も行えます。リモートへ仮想スタンバイする場合は、RPS が必要です。



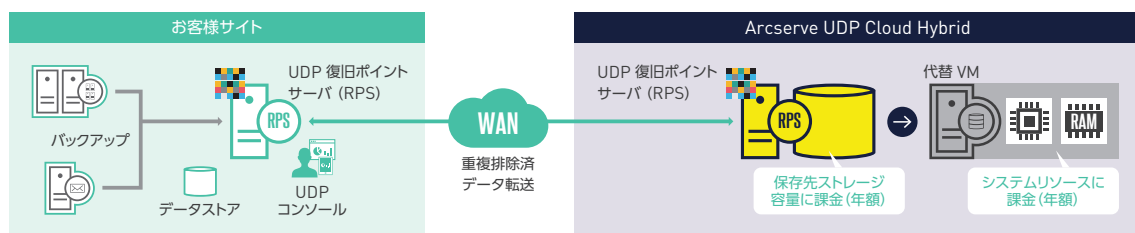
※Windows 環境でご利用いただけます。

その他の豊富な機能

アシュアードリカバリ	バックアップデータがリストア可能であることを手間をかず自動で確認し、結果をメールで通知できます。
コマンドラインインターフェース	ジョブの実行、監視を行う運用管理ツールとの連携を容易にします。コマンドからバックアップ/リストアなどを実行できるため、ジョブネットに組み込んでシステム運用の一部としてバックアップを管理できます。
アシュアードセキュリティスキャン	バックアップデータの安全確認のため、データをマウントしてスキャンします。スキャンはリストア前の任意のタイミングで実行できるほか、バックアップ/レプリケートジョブの後に定期的に行うこともできます。
スケジュール設定	日次・週次・月次での設定はもちろん、指定曜日の除外といったバックアップスケジュールの柔軟な設定が可能です。
バックアップデータの暗号化	AES256/192/128ビットでバックアップデータを暗号化できます。これによりデータを安全に保管します。

遠隔地バックアップ

Arcserve UDP Cloud Hybrid とは、Arcserve UDP で取得したバックアップデータを Arcserve クラウド上に2次複製するサービスです。また、障害や災害時には、お客様サイトにデータを戻してリストアすることはもちろん、クラウド上で業務継続用仮想マシン環境を利用することも可能です。お客様自身で災害対策サイトを構築する必要がないため、簡単・お手軽に災害対策を始めることができます。



Arcserve UDP ライセンス一覧(含まれる機能一覧)

エディション バックアップ要件	サーバ用エディション			クライアント用 エディション		同梱ライセンス
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation	Appliance	
イメージ バックアップ / 共有フォルダ(CIFS/NFS)のバックアップ	✓	✓	✓	✓	✓	Arcserve UDP
重複排除	✓	✓	✓	✓	✓	
バックアップデータの遠隔転送	✓	✓	✓	✓	✓	
統合管理	✓	✓	✓	✓	✓	
仮想マシンのエージェントレスバックアップ	✓	✓	✓		✓	
仮想スタンバイ	✓	✓	✓	✓	✓	
インスタント VM	✓	✓	✓		✓	
VSS ライターを利用した オンライン バックアップ※2	✓	✓	✓	※1	✓	
アシュアードリカバリと SLA レポート	✓	✓	✓		✓	
バックアップ データのテープ保管※3	✓	✓	✓		✓	Arcserve Backup
Oracle RMAN 方式のオンラインバックアップ		✓	✓		オプション	
ストレージのハードウェア スナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / NIMBLE / DELL)		✓	✓		オプション	
役割ベースの管理		✓	✓		オプション	
アシュアード セキュリティ スキャン		✓	✓		オプション	
Arcserve Backup 全機能※4		✓	✓		オプション	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製		✓	✓		オプション	Arcserve Replication/HA
Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製※4			✓		オプション	
Arcserve High Availability ファイル/ アプリケーション サーバの自動切替※4			✓		オプション	
クラウドへのバックアップデータの複製 ※4						Arcserve UDP Cloud Hybrid

※1 Microsoft SQL Server Express Edition のみオンライン バックアップをサポートします。 ※2 Microsoft 365 の保護には、別途サブスクリプション(10ユーザ1年メンテナンス含む)を提供しています。 ※3 Arcserve Backupのインストールが必要です。 ※4 日本でサポートされている機能・動作要件が対象です。

動作要件 詳細は弊社 Web をご覧ください。

対応 OS	アプリケーション	仮想環境/クラウド
Windows Server 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 / Windows Storage Server 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 / Windows IoT for Storage 2022 / 2019 / Windows 11 / 10 / Linux (Red Hat, SUSE, CentOS, Oracle Linux, Debian, Ubuntu, AlmaLinux, Rocky)	Microsoft Active Directory/ Microsoft Exchange/ Microsoft SQL Server/ Microsoft SharePoint/Oracle Database	VMware/Microsoft Hyper-V/ Nutanix AHV/ Amazon EC2/Microsoft Azure/ Google Cloud Platform 他

ライセンスの考え方

課金の対象となるのは、バックアップ対象のみです。バックアップ対象数またはバックアップ対象サーバのソケット数でライセンスを適用します。コンソールおよび Recovery Point Server (RPS:復旧ポイントサーバ) のライセンスは、不要です。



※Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ（物理/仮想ホスト）のソケットの合計数が必要です。

ライセンスの種類

サーバ台数

保護対象の物理サーバの台数分で課金されるライセンス体系です。

CPU ソケット数

保護対象サーバで利用されている CPU ソケット数分で課金されるライセンス体系です。物理・仮想環境に対応しています。

データ容量

保護対象サーバの総データ容量で課金されるライセンス体系です。

価格 (税抜 ※カッコ内は総額表示) 本価格表以外にアカデミックライセンスのご用意があります。

エディション ^{※1}	サーバ単位 (Server)			ソケット単位 (Socket)		
	ライセンス+メンテナン ス 1年	ライセンス+メンテナン ス 5年 ^{※5}	サブスクリプション ライセンス1年	ライセンス+メンテナン ス 1年	ライセンス+メンテナン ス 5年 ^{※5}	サブスクリプション ライセンス1年
Advanced Edition	¥151,000 (¥166,100)	¥259,000 (¥284,900)	¥52,000 (¥57,200)	¥198,000 (¥217,800)	¥338,000 (¥371,800)	¥68,000 (¥74,800)
Advanced Edition for Nutanix ^{※2}	-	-	-	¥198,000 (¥217,800)	¥338,000 (¥371,800)	¥68,000 (¥74,800)
Premium Edition	-	-	-	¥387,000 (¥425,700)	¥657,000 (¥722,700)	¥132,000 (¥145,200)
Premium Plus Edition	-	-	-	¥580,000 (¥638,000)	¥985,000 (¥1,083,500)	¥198,000 (¥217,800)

エディション ^{※1}	容量単位 (1TB 単位) ^{※3}		クライアントPC用製品 ^{※1}	ライセンス+メンテナン ス 1年	ライセンス+メンテナン ス 5年 ^{※5}
	サブスクリプション ライセンス1年	サブスクリプション ライセンス5年			
Advanced Edition	¥193,000 (¥212,300)	¥962,000 (¥1,058,200)	Workstation Edition 1本	¥20,300 (¥22,330)	¥34,300 (¥37,730)
Premium Edition	¥383,000 (¥421,300)	¥1,911,000 (¥2,102,100)	Workstation Edition 5本	¥80,000 (¥88,000)	¥140,000 (¥154,000)
Premium Plus Edition	¥572,000 (¥629,200)	¥2,860,000 (¥3,146,000)			

Microsoft 365用製品サブスクリプション			Arcserve UDP Cloud Hybrid ^{※6} - JAPAN EAST (東日本リージョン)		サブスクリプションライセンス1年
10ユーザ	サブスクリプション ライセンス1年	¥47,000 (¥51,700)	Arcserve UDP Cloud Hybrid - Storage - 1 TB - JAPAN EAST ^{※7}		¥277,000 (¥304,700)
			Arcserve UDP Cloud Hybrid - Additional Storage - 1 TB - JAPAN EAST		¥277,000 (¥304,700)
			Arcserve UDP Cloud Hybrid - Compute - 1 vCPU & 4 GB RAM - JAPAN EAST ^{※8}		¥91,000 (¥100,100)
メディアキット ^{※4}			Arcserve UDP Cloud Hybrid - JAPAN WEST (西日本リージョン)		
¥15,000 (¥16,500)			Arcserve UDP Cloud Hybrid - Storage - 4 TB - JAPAN WEST ^{※7}		¥1,176,000 (¥1,293,600)
			Arcserve UDP Cloud Hybrid - Additional Storage - 1 TB - JAPAN WEST		¥294,000 (¥323,400)

※1 新規購入の際、ライセンスおよびメンテナンスの購入が必要です。詳細は弊社 Web サイトをご覧ください。 ※2 Nutanix 専用のライセンスです。 ※3 バックアップ(または複製)対象の総データ量に対して課金されるライセンスです。本価格は、1TB(テラバイト)に対するライセンス金額です。 ※4 ライセンスプログラムで購入した製品をインストールするためのメディアです。ライセンスプログラムを初めてご購入いただく際はメディアキットをご購入いただくか、もしくはモジュールを Web からダウンロードしてご利用ください。 ※5 メンテナンス/サブスクリプション期間は、ご購入時の製品のバージョンのサポートをお約束するものではありません。サポートの対象バージョンは、その時点でサポートする製品バージョンに準じます。サポート対象バージョンは、サポートライフサイクル情報で確認できます。 ※6 Arcserve UDP Cloud Hybrid を使用するには Arcserve UDP ライセンス、または Arcserve UDP Appliance を使用して一次バックアップを行う必要があります。既に Arcserve UDP を使用した一次バックアップ環境がある場合には追加購入は不要です。Microsoft 365 を Arcserve UDP Cloud Hybrid にバックアップする場合は、Arcserve UDP のライセンスおよび Arcserve UDP Appliance は不要です。 ※7 Arcserve UDP Cloud Hybrid を使用するには Storage 1 TB - JAPAN EAST / Storage 4 TB - JAPAN WEST のいずれかの購入が必要です。各リージョンの Additional Storage 1 TB を追加購入すれば、バックアップ データの複製先のストレージ容量を拡張できます。 ※8 仮想スタンバイ/インスタント VM 用に高性能のインスタンスが必要な場合、Compute を複数ご購入ください。

Arcserve
ジャパンダイレクト

製品情報

サポート情報

30日間
無償トライアル

Arcserveセミナー

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2025 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
お問い合わせ窓口: Arcserveジャパンダイレクト (0120-410-116)
JapanDirect@arcserve.com
WEBサイト: <https://www.arcserve.com/jp>
※記載事項は変更になる場合がございます。 2025年6月現在

Arcserve Japan
WEBサイト

